

小学校 学年を対象とした「くずし字」指導と文化財教育の融合

教育学 大橋直義

【本共同研究の背景】

平成 29 年告示・小学校学習指導要 解説における習得すべき〔知識及び技能〕第三 には「我が国の言語文化」が掲げられ、「指導の改善・充実」が企図されている。教科書には理解しやすい物語・舞台芸能などが取り上げられ、学校現場では様々な創意工夫がなされているが、地域に伝存する文化財教育との親和性を想定した、「くずし字」が 壁となる。

日本各地には、現代日本人の 99 以上の人々がもはや読むことのできなくなった文字で記された文化財が無数に存在しているが、その内容を把握するための「くずし字判読」の発競争が世界的規模で推進されていることは周知の事実である。文化財教育のみならず、そういった未 の沃 への参入 壁を極力小さくしてゆく努力が求められている。

【本共同研究の目的】

小学校 学年児童を主たる対象とした、「くずし字」を楽しく学びながら、「我が国の言語文化」の基礎となる文化財全般 特に文献資料 への 心を増大させるため、回 セットの授業計画を作成し、それを学 学生による授業というかたちで実践すること。

【実施内容・概要】

2019 年 8 月 7 日～10 日

研究代表者および教育学 国語教育専攻に在籍する大橋ゼミの学生 名によって、「くずし字」を学ぶための方法およびその内容についての会議を行なった。そこで、全 回の授業のうち、今年度は第 回および第 回のコンテンツ作成を行なうこととし、下記のような授業概要を制作することとした。

第 回 渋川版御伽文庫『うらしま』を用い、現代の小学生が知悉する「浦島太」の物語との相違点に着眼しながら、変体仮名と漢字 字母 との 係を理解し、文字を読む楽しさを学ぶ。

第 回 地域にまつわる物語でもある『道成寺縁起絵巻』を取り上げ、その物語の内容を追いながら、未習の変体仮名を読み、また使用 度の い漢字も読みとれるように学ぶ。

2019 年 9 月～11 月

学生の自発的研究により、上記 回分のコンテンツを作成した 古典籍画像のトリミングおよび加工などパワーポイントファイルの作成、ワークシートの作成、くずし字を読むため

の一覧表の作成、授業計画・指導案の作成など)。

[2019 年 12 月 16 日]

有田川町立吉備中学校のご協力を得て、大橋ゼミを中心とする国語専攻学生 3 回生が授業者となって、1 年 A 組～D 組の 4 クラスで第 1 回に相当する授業を行なった。

後日おこなった反省回において、当日のアンケート及び授業時の様子から、やや難易度が不足していたと見て、判読する文字数の増加を始めとした難易度調整を行ない、また、パワーポイントも改善するように努めた。

この段階において、附属小学校および吉備中学校においても、2 回目の授業を行なうことが日程調整の面で困難であることが判明し、2 回目以後の授業実施は次年度以後の課題とすることとした。



[2020 年 2 月 3 日]

附属小学校における授業実施。5 時間目：5 6 年 F 組（宮脇学級）、6 時間目：6 年 C 組（平井学級）。いずれも、第 1 回に相当する授業内容を大橋ゼミに所属する国語専攻学生 3 回生が担当し、他 2 名はサポートにまわった。代表者・大橋の他、国語専攻の菊川教員も参観。



### 【課題】

「くずし字」授業は国語の分野のみならず、社会（地歴・日本史）においても重要な観点となる。社会科としても使える授業コンテンツの開発や、県立・市立博物館および本学紀州経済史文化史研究所との協働も不可欠である。